

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 2月 19日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271402093		
法人名	有限会社 たすかる		
事業所名	グループホームたすかる		
所在地	長崎県南島原市深江町戊2975-6		
自己評価作成日	平成27年1月10日	評価結果市町受理日	平成27年3月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php
--------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成27年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様に楽しんで生活していただけるよう利用者様の希望は出来るだけ叶えてあげられるように職員が努力しております。外出の機会を増やしたり、ホームでの食事もホットプレートを使用して食欲増進や食を楽しんでいただくためにも皆様に作って頂いたりもしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

日当たりのよい中庭に佇む礼拝堂は入居者や地域の心の安らぎを担い、木々の色づきで四季を楽しみながらゆったりとした生活を営む当事業所は、「挨拶と笑顔あふれるホーム」を目指し入居者と職員共に活気にあふれ家庭的で温かみを感じられるホームである。職員は表情や言葉の中から入居者の思いを汲み取り、また、職員間で話し合いをしながら思いの実現に繋げるため職員間で具体的に検討し思いの実現に向け真摯に取り組まれている。島原半島のグループホーム協議会や外部研修に積極的に参加し様々な事例や介護の現状に触れることも多く、職員の学びの機会や職員の自主性を活かした次世代の職員育成にも尽力され、活気あふれる雰囲気作りや、入居者の笑顔を更に引き出すことに喜びを感じる職員と共に今後ますます期待の持てる事業所である。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度の目標として「今に生きる・今に輝く」という理念を掲げ職員一同が理念を共有している。	職員間で決められた介護理念をもとに毎年スローガンを掲げ、言葉の概念や介護の基本を共有しながら理念の意識付けを図り、日々職員間で振り返りを行いながら理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の方・近隣住民の方へ敬老会への招待・避難訓練の時は参加してもらっています。	地域の方と挨拶を交わす際には必ず一言言葉を添え、中庭でお茶を準備した際にも一緒にお誘いし、地域との顔なじみの関係や絆作りを大事にされている。自治会長や近隣の方との交流によりグループホームや認知症に対する理解にも繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の方推進会議等で説明を行っているが地域貢献には至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告されたことをケア会議や資料として提示し、サービス向上に繋がるように話しあっています。	会議においては写真を添付した資料にて生活の様子を伝え、参加委員からの助言や提案、情報交換により視野の広がりがあり有意義なものとなっている。避難訓練も毎回地域より参加協力を得ており、緊急時の協力体制を構築する場ともなっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表が民生員や包括支援センターを定期的に訪問したり広域圏組合と関わりも多く持たれている。また、生活保護の方の状況も担当者と定期的に話し合いが行われています。	今年度推進会議において自然災害時の対応について避難場所の確認や地盤の確認を行った。現在のハザードマップは情報が古く、また地域資源の情報分散化もあるため他職種との連携を図りながら新たなハザードマップの作製の検討に繋がった。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>基本的に身体拘束はしないケアの取り組みに努めています。職員間で協議し正しい理解と見直しを行っています。</p>	<p>入居者の重度化に伴い見守りの必要性がある入居者が増えているが、見守りや症状に対して職員間で情報を共有し、拘束による弊害の理解や予防策をとることで拘束をしないケアの実践に繋がっている。入居者への対応にも一定の介護者に精神的な負担をかけない体制づくりの工夫もあった。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修での資料や虐待に関する記事が出た場合は職員に回覧し、職員一人ひとりが理解できるように話し合いに努めています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修を通して学ぶ機会があったが、参加できない人が多かった。話し合いや活用には至っていない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の提携・解約等に関しては、代表・管理者が十分な説明を行い理解納得を図っています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し利用者様・ご家族にも面会時などに相談・意見・要望など伺い職員間で検討し日々のケア向上に反映出来るように努めています。</p>	<p>毎月入居者の写真と一筆状況報告を添付した便りを家族へ発送し家族との信頼関係構築を図っている。面会時には、残された機能や本人が喜ばれることも説明し家族の思いを問いかけながら、家族と共に生活を支援している。入居前に介護者の支援が必要だった方が入居後生活力を取り戻し、本人の希望により支援事業所と連携を図ることで自宅復帰できた事例もあった。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>アンケートを行い職員一人ひとりの意見・思いなどを聞き会議などを通して説明されたり反映されています。</p>	<p>職員の自主性を尊重した体制が構築され、それぞれが役割を担いながら業務を遂行されている。行事計画や環境整備等役割を職員で話し合いながら責任を持って行うことでコミュニケーションや連携が図られ、職員のやりがいや定着率にも繋がっている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の努力や実績・勤務状況把握されています。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修参加への意義を伝え研修を通して学んだことに対して資料を回覧したり、ケア会議などで話し合い実践につなげるように努めています。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>研修に参加し知り合う機会があり、同じ働く者として馴染みの関係や相談をする機会があります。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談時に自宅訪問しご本人・ご家族より色んな困り事などの話を伺い、パンフレット等を使用し説明するようにしています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族状況も同様に伺い困っている事・不安な事に耳を傾けながら安心して入居出来るようにプランに盛り込んでいます。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談内容により支援の方針ニーズに合った支援に盛り込み努めています。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の趣味や作業と一緒にいき共に喜びあったり教えていただいたり、日々の生活の中で共感しあい楽しく生活できるように支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りを出し行事の写真などは施設内に貼り出したり、面会に来られた際は報告し一緒に喜びあっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話など希望された場合支援を行い、行きたい所がある場合は出来るだけ希望に添えるように努めています。	入居以前の生活歴や対人関係の把握を行い、本人の思いに寄り添いながら先方への声かけや繋がりが途切れないよう支援されている。入居前に家族と出かけた県外の地蔵尊に思いを寄せ、個別支援で職員付き添いで外出し、心に寄り添った事例もあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カラオケ会や歌番組を観たりするのが好きな方が多くリハビリ体操等を通してかかわり合い支え合う関係作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからもいつまでも関係が持てるように居宅・訪問事業所の担当者が伺ったり代表者が自宅へ訪問したりして話をお聞きしたりしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	細やかな状況の把握に努め、基本情報をもとに課題分析し気持ちを汲み取れるように努めています。	入居者の言葉やその時の表情や様子を注視し、入居者が望む暮らしの実現を図られている。業務日誌や個人記録に入居者の言葉や反応を記録し、会議で話し合いながら思いの理解に繋げている。生活の中で職員のさりげない心遣いや手助けにより入居者の表情が和らぐ様子が窺われた。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境・大切にしていることの情報やケアプランに反映してサービスの利用経過等の把握に努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や訴えを傾聴し見守りの中で心身の状況把握に努めています。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はご本人・ご家族の要望や職員の意見を取り入れ作成出来るように努めています。状況に変化があるとその都度アセスメントをし介護計画を作成しています。	支援経過記録には表情や入居者の言葉、計画に対する実施状況が細かく記録され計画の進捗状況の把握や経過の推移、次期計画の判断資料として有効に活用されている。また、入居者の持つ力や思いを職員間で話し合い、今後の支援への方向性を確認し介護計画の作成に繋げている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に言動や行動・摂取量・排泄・身体状態を記録し職員間で情報の共有をしながらケアプランの作成・見直しに活用しています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況や要望に応じて通院支援・自宅帰省・買物支援などの個別支援を行っています。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との交流が少なく現状協働出来ていません。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医や協力医の往診もあり健康管理や相談ができるような体制がとれています。いつでも適切な医療が受けられるように支援しています。	本人や家族が希望するかかりつけ医の継続支援を行い、医療機関によっては定期往診も可能である。受診の際には症状の変化や状態の確認等職員間で情報を出し合い、医師へ症状や内服の相談を行い適切な医療へ繋げ入居者・家族への安心感にも繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常の気づき・変化があればすぐに看護師に報告し適切な受診やケアが出来るように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、様子を観に行ったりご家族より治療状況・病状の説明等を伺い内容説明時には同席したりして状況の把握に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には看取りに関する方針をお伝えし同意を得ているが、看取りに向けて終末期の在り方についてご家族・主治医と話し合い希望に沿えるように支援したいと思えます。	今回家族の希望にて医師と相談しながら看取りを行う体制への準備を整えた。内部研修にて重度化への基礎知識や緊急時への対応、また、家族や本人、職員へ心の持ち方を学ぶ機会を設けている。その人らしい生活への支援に向け他事業所の事例検討等の研修を重ね、今後も家族の要望に対応していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命士の蘇生法の講習を年に1回は受講しています。急変・事故発生時にはマニュアルを確認把握し、統括より指導・助言を受け実践できるように身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災に備えての避難訓練は年2回実施出来ているが水害・地震の災害時に向けての地域の方を交えた訓練を行えればと思います。	避難訓練の際には地域からの参加もあり、誘導方法や避難経路の確認など助言や協力が得られている。前回の目標達成計画において、食材や防寒具等の購入と補充・持ち出しファイルの整備を行った。推進会議でも自然災害に対する意識を改め今後訓練を重ねる方針である。	過去の風水害の状況や地盤の確認など推進会議内で確認はなされているが、現在の防災マップは情報が古く、危機管理への意識を更に持ち、広域避難場所までの移動を弱者の立場で経験するなど、地域の防災マップ作製に向け検討される事を期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの自尊心を大切に声掛け等には解りやすい声掛け、わかりやすい言葉で話せるように心がけて支援を行っています。 入居者の個性を大切にす言葉かけを行い、くだけた関係にも敬意を払い、感謝の心を持って対応されている。職員は自宅を離れた入居者の寂しさや、思うように体が動かない不安感や心情を理解し、声の高さや励ましの言葉等その方に応じた声かけの工夫を行い、入居者の孤独感が解消できるよう家族的な関わりを持たれている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	掃除・洗濯物たたみや食事の準備等の手作業がある時には声掛けし自発的に行えるように働きかけています。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活パターンが身についておられ、その方の生活リズムに合わせた支援を行っています。買い物等の希望があれば可能な限り支援しています。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが出来る方は洋服を選んでいただいたり、できない方には職員が支援しています。また、化粧が出来る方にはセッティングし自身で出来るように支援しています。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを作成する際食べたい物を訊ねたり、好みをお聞きし楽しい食事が出来るように支援しています。職員も間に入り会話しながら食事を行っています。 御膳には季節の食材が彩りよく使用され、家族や友人からの鮮魚の差し入れに入居者が下ごしらえで腕を振るうこともある。食材を通して会話が広がり季節を感じる事ができるなど、寛いで食事を楽しまれている。また、お盆拭きや後片付けを入居者が役割として担い、家庭的な雰囲気も感じることができた。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表をつけ個々の摂取量を把握し盛り付けを工夫しています。献立は担当者が栄養面を考えつつ個々の希望も踏まえ工夫し献立をたてています。

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態（義歯残歯）を把握し毎食後本人の力に応じて保清に努めています。できない方は介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の一人ひとりの排泄状況を記録し排泄パターンを把握し、失禁が減らせる様に支援を行っています。	日中はトイレでの排泄を基本とし、定期的な声かけを行うことで失敗による喪失感をふせいでいる。入居者の身体状況に応じて車いすのフットレストを取り外し座位ながらも歩行が出来るよう工夫するなど、生活リハビリを多く取り入れることで筋力低下を防ぎトイレでの排泄動作の安定にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のコントロールができるように原因を探り、水分補給を促したり、繊維の多い食材を取り入れたり、体操や運動を取り入れたりして取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴日を設けており、その方のその日の状態に合わせて、入浴の支援をしています。同時に全身の状態も観察しています。	入浴日の設定はあるが体調や気分によって変更も可能である。浴室は自然の採光や風通りがよく、浴室・脱衣所共に広いスペースが確保され入居者が自分のペースで入浴できるよう支援されている。足腰が弱っている入居者へはリフト浴を使用し、安心感や安全面にも配慮されている。また、季節湯の用意でゆったりと入浴を楽しむこともできている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせた生活習慣に応じて、就寝出来るように支援しています。日中にも居室で休息できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が利用者様の疾病・内服・副作用等の理解に努め、内服記録や変更があった場合には、伝達し、管理しています。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや手作業等ができるように職員が共に行い、一人ひとりの生活や残存能力を生かし、すごしていただけるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	穏やかな天気の日には外気浴や散歩、買い物が出来るよう希望を尋ねたり、戸外に出て、気分転換ができるように支援しています。	入居者の言葉やリクエストに耳を傾け、職員の体制を整えながら年間を通して地域のイベントへ積極的に出かけている。馴染みのある地域への外出は入居者の心と体への働きかけとなっており入居者の自信や笑顔、心の満足感へと繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方にはお金を所持して頂き買い物が出来るよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけてあげたり、状況に応じて電話を掛けてさしあげたり、手紙が届いたりした時は代読してさしあげています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には、季節に合わせた飾り物や花等を飾り生活感や季節感を取り入れて快適に過ごせるように工夫し支援しています。	職員により手入れが施され清潔感のある共用空間には四季の移ろいを感じられる大きな窓があり、あたたかな日差しとあたたかな職員からの言葉かけにより家庭の延長を感じさせ、ゆったりと会話を楽しみ寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを設けたり、気の合った利用者同士の居場所・空間等を工夫して過ごしていただいています。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は各居室に思い出の物（家族の写真や馴染みの家具等）持ち込まれ、その人らしい居心地の良い空間であるようにしています。	居室には使いこまれた手まわり品や家族との写真等それぞれに思い出のある品々が持ち込まれ、寝具の色合いや自分の生活に合わせた家具の設置により、ひとりで過ごす時間も安心して暮らしやすく、安らげる時間となるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今までの生活でされてきた、食事の準備・洗濯物たたみ等、現在の存在機能を生かしその方にあった出来る事を支援しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに利用者様の満足は職員の満足となるよう共に一緒に生活支援を行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり小学校へ学習発表会への参加や中学生の福祉体験の受け入れ近隣住民の方のお釈迦様へのお参りや、野菜や新聞を地域の方より頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の勉強会や近隣散歩・ホームの見学などを通して理解をしていただけるように行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の内容を毎回設定する中で推進委員の方に議題や内容の見直し、勉強会の開催・ホームに求めるものなど意見を聞きサービスの向上を目指しています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表は普段から広域に顔を出して相互の情報交換や管理者が直接書類を提出しに何うなどしている。推進会議のメンバーに広域より参加をいただいております。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束はしないケアに取り組んでいます。転倒リスクの高い利用者様についてはご家族了承のもと柵に鈴をつけて対応したりしています。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待の研修に参加し参加できなかった職員は回覧で全員が周知できるように行っています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加したり資料で学ぶ機会があっても活用できるまではまだ出来ていません</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約・改定の際は代表と管理者同席し十分な説明を行っています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>推進会議の中でご家族代表や自治会の方より意見を聞いたり取り入れ出来るものは積極的に行っています。また、面会時にご家族へ要望なども定期的にお伺いしています。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見や提案は職員間で話し合い管理者より代表へ伝えたり直接各担当者が管理者へ相談のもと代表に伝えるなどし、利用者様や職員が過ごしやすい環境を作っています。</p>		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>経験年数や職員の努力等を反映し給与の見直しがある。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修には積極的に参加するよう呼びかけ研修の機会には参加しています。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>研修会や協議会の役員をスタッフが担当しており交流関係がある。また、島原半島風船バレー大会の大会実行委員長や利用者様の選手宣誓を引き受けたりと半島を通し交流を行っています。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所の相談時から施設見学にご家族やご本人様に見学や体験入所などを行っています。また、自宅に訪問し困り事や要望等を伺い安心して生活できるように説明を行っています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の状況を把握し・相談や要望意見を伺い面会時にはこまめに状態などを報告し信頼関係を築いております。意見をもとにケアプランに反映するよう努力を行っています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ニーズに合わせて職員間で話し合いケアマネをはじめ支援方法を決定しその時に必要なサービスの支援を行っています。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや調理の下ごしらえなど、共に行っております。一緒に生活を楽しみ教わったりしながら生活を支えながら過ごしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の要望等のご家族へ相談し外出や外泊の際は協力関係にあります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの場所など要望あれば出来る限り要望に沿えるよう支援しています。面会も多くお茶を飲みながら居室でゆっくり過ごして頂くなど支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動をはじめその人にあったサービスの提供が出来るように全員で行う行事や個々で行う支援など関わりの場が多くあるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも面会に伺ったりご家族が「遊びに来た」とお茶を飲みに来られることもあります。また、推進会議のメンバーとして協力していただいています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話などからも希望や食べたい物・行きたい所を聞き出し把握に努めています。また、意志疎通が困難な利用者様は表情やジェスチャーなどで把握できるように日頃より把握しています。		

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や馴染みの関係や故郷は大切にケアプランに反映しています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿った支援を行い、個別にサービスを計画したりしています。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・ご家族の相談や要望意見をケア会議で共有しケアプランの作成・見直しを行っています。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の行動や様子・言葉などは記録にありのまま残し記録する事で情報の共有を行っています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節の行事やその時にしか出来ない事などは要望に応じて個別支援や里帰りなども計画し実施しています。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握があまり出来ないように思います。その為、まだ地域との関わりを持ち相互に交流を深めていけたらと思っています。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医や協力医の往診で健康管理や急変時の対応や相談等も行っております。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師や訪問看護師に気づき等は報告相談し、適切な対応が出来るように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は情報の交換や治療の状態を把握し医療機関から説明ある際はご家族と一緒に同席させていただいたり、内容をご家族へ報告したりしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医により看取りに向けて意識の統一は出来ている。出来る限り利用者様やご家族の希望に添えるように支援を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生についてはマニュアルや事故報告書で確認や指導・助言などを行い再発防止に努めています。また、救急隊からの蘇生法やAEDの使用方法なども避難訓練の際は訓練しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災の訓練は出来ていますが、自然災害の訓練についてはまだ出来ない状態です。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様が昔から呼ばれていた呼び名等はご家族に説明し利用者様が喜ばれる呼び方で呼んだりしています。声掛けには自尊心を守りわかりやすい言葉で話すように心掛けています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物・行きたい所・レク活動等選択できるものは普段から聞き出しリクエストにお応え出来るように支援しています。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調・気分にあわせて希望に沿った支援を可能な限り行っています。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やマニキュアなど定期的に行ったりしています。また、出来ない方でも綺麗になると素敵なお顔になるので日課として支援しています。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き・配膳等も利用者様と職員で行っています。リクエストがあれば献立を変更したり、ホットプレートを使用したり食事が楽しみになるよう工夫しています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いに合わせてメニューを一部変更したり、水分は確実に飲水出来るように時間を決めていきます。食事・水分量については摂取量を把握し健康管理を行っています。

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。本人の状態に合わせた支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し時間誘導を行っています。利用者様の状態で納得できるまでトイレへ誘導するなど支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズに排便出来るように排便コントロールや日中の過ごし方の工夫や早めの対応を心掛けています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	清潔保持の為に入浴日以外でも入浴を行う事もあります。季節感も大切にしています。利用者様が快適に入浴できるように順番の配慮を毎回行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて就寝してもらい就寝前にはあったかい飲み物を提供するなど支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はいつでも確認できる所にあり、利用者様の疾病や内服・副作用の理解をしています。		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者様の特徴や特技を生かし日々の役割や楽しみ事・気分転換が出来るよう支援しています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>利用者様の希望があれば遠出も計画を立てて職員体制を充実させ実地しています。重度の方でも季節感を感じていただけるように周辺散歩に出掛けたりしています。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族了承のもと金銭管理が出来る方は買い物支援や散歩の途中でジュースを購入されたり楽しみにされています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は好きな時に出来る環境にあります。また、ご家族が定期的に掛けて下さる事で状態報告が出来ています。はがきも年2回ご家族・友人に送っています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は皆さんが気持ちよく使っていただけるように掃除し、花や植物を置き季節感を大切にしています。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>日当たりのいい場所にソファを置き好きな時に独りで日光浴したり皆さんで談話したり座敷で食事や洗濯物たたみ等好きな場所で作業や過ごせるように努めています。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品物で各居室はその人らしきが出ている空間であると思います。ベッドの位置なども利用者様の要望や介護状態に合わせて変更したりしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が解らなくなってきた利用者様には手作りわかりやすいようにラベルを貼りつけたりしています。出来なくなってきた事をさりげなく出来る支援を行っています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない